

座長のまとめ

第1群の座長をつとめて

菅 野 久美子
(金沢医科大学病院)

第17回石川看護研究会の第1群の座長を務めさせて頂きました菅野です。この研究会では1演題、1演題を大切に検討していく趣旨で1演題発表ごとに質疑応答の時間を設ける形式になっています。質疑応答の4分程度の時間は実は貴重であり有意義な時間となるものです。従って、会場からご質問・ご意見を頂いた時にはとても嬉しい思いが致しました。逆に会場からの質疑がない場合は演者の方も寂しい思いをなさったのではないかと思います。島田先生も御講評の中で臨床の中での研究への敬服と同時にフロアからの質問が少ないことについてのご指摘がございました。

第1席は金沢社会保険病院の上岸広さんの「周手術期における直接介助看護婦のストレスについて」では、ストレスの数量化について身体に及ぼす影響まで調査されています。私からネガティブなストレスとポジティブなストレスの判断指標とストレス耐性についてお伺いしましたが、御講評では方法論など評価され他の場面との比較を提示されました。

第2席は金沢医科大学病院の須貝みち子さんの「20代女性の月経不順と食生活・睡眠習慣との関連性の検討ー看護職とその他職種との比較ー」では、私から具体的な食習慣の悪さと対処についてお聞きしましたが、「面倒」「食べるものがない」など現代の風潮が現れているように感じました。少しでも食することを意識的に改善していくことを返答されました。御講評では対象職種の選択、分析、結果についてなど細かいご指摘がありました。

第3席は映寿会病院の梅村外志江さんの「痴呆性老人の対応困難な場面でのケアに関する研究ー看護・介護者の気持ちの特徴ー」では、会場からの質問があり自らの感情に気づくということについて評価され、対処方法について問われました。御講評でも研究のプロセスに一貫性があり、考察が興味深く有用な資料であることを取り上げられました。

第4席は石川県立看護大学の谷本千恵さんの「精神に障害を持つ人に対するイメージと親近性ー講義、実習開始前の看護学生を対象としてー」では、御講評では目的から記述の一貫性を評価され、既存研究との比較と対象が看護学生であることのエラーについてご指摘がありました。

第5席は金沢医科大学附属看護専門学校の北村昌美さんの「看護学生の社会的スキルー生活感情との関連に焦点をあててー」は看護教育プロジェクトの演題で島田先生からの講評はありませんが、会場から結果に対する一般性、影響要因、結果の今後の方向などについてご質問などがありました。

島田先生のご講評はどの研究に関しても一連の記述が、的確で一貫性があるか、結果、考察が目的を満たすようになっているの視点を重点的に講評頂いたものと思います。

最後に第1群の研究発表を終了して臨床で働きながら研究を続けられた発表者、共同研究者に本日至るまでのご苦勞を想像し本当にお疲れ様の気持ちと今後とも更に継続して下さいの思いであることをお伝えしたいと思います。